



唐泉山を仰ぎみて

嬉野市立塩田中学校
「学校だより No10」
令和7年 12月 24日
文責：校長 宮崎武司

学校教育目標 「心豊かに ともに 伸びる」

～仲間とともに伸びる 教師とともに伸びる 保護者・地域とともに伸びる～

令和7年もいよいよ終わりに近づいてきました。4月から今日までの9か月間、生徒たちの成長を日々感じることができ、私たち教職員にとっても大きな喜びでした。特に9月以降は、学校行事や学年行事を通して、生徒たちが活躍する場面がたくさんありました。

明日から1月7日までの14日間、冬休みに入ります。寒さも厳しくなる中、感染症に罹患する生徒も見られましたが、どうか体調を崩すことなく、ご家庭で楽しい時間を過ごしていただければと思います。3年生は入試を控え、例年とは異なる過ごし方をしなければなりません。限られた時間を有効に使い、目標達成に向けて努力してほしいと願っています。

【お茶体験・塩田津散策】

毎年この時期、塩田中学校の3年生は、本應寺さま、寺田博子さま、塩田町並み保存会ガイド部のみなさまのご厚意により、西岡家住宅について学び、本應寺ではお茶会を体験しています。

お茶会では、寺田さまから床の間の掛け軸についてお話を伺いました。掛け軸には「関」と「南北東西活路通」という言葉が書かれています。「関」とは関所のことで、そこを越えさえすれば後は南北東西、自由に活路が開けるという意味だそうです。

寺田さまの「『関』=限界を超える、あるいは難関を乗り越えること、中学3年生なら『受験』を乗り越えれば、可能性がどこまでも広がるんですよ」という励ましの言葉に生徒たちは勇気づけられ、前向きに取り組んでいくことだと思います。

3年生のために、この掛け軸をご準備いただき、本当にありがとうございました。郷土の歴史や日本の伝統文化に触れ、地域の方々から温かい応援をいただいたことは、受験と卒業を控えた3年生にとって、心に残る思い出になったと思います。



【西岡家住宅】



【塩田津の町並み】



【本應寺】



【釜炒り茶体験・陶芸教室】

12月は2年生で「うれしの釜炒り茶 釜炒り体験」を行いました。「釜炒り体験」は嬉野市役所茶業振興課と嬉野釜炒り茶協議会の方々にご指導いただき、手炒り茶と釜炒り茶の製茶を実際に体験しました。さらに、1年生と2年生は「陶芸教室」も行いました。美術の授業の一環として、「志田焼の里博物館」から講師をお招きし、土の感触を楽しみながら作品づくりに挑戦しました。2年生は「模様入りのボール」、1年生は「ペン立て」を成形し、約1か月後に焼きあがる予定です。また、2年生は陶芸教室の前に、志田焼の里博物館 館長 山田龍介さまより志田焼の歴史などについてお話を伺いました。

今回の体験は、嬉野の伝統文化やものづくりの魅力を子どもたちが肌で感じる貴重な機会となりました。ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。



〔志田焼の里博物館 館長 山田さんの話を聞いて〕(生徒感想)

- 今日の話を聞いて、志田焼は日本遺産であるということを知りました。塩田は何もないというイメージが強くあったけれど、話を聞いて、塩田にはこんな素晴らしい歴史があって、日本遺産になっているのがすごいなど感じました。志田焼では皿をメインにつくっているのも、何か理由があるのかなと思いました。
- 私は志田焼のことを正直詳しく知りませんでした。でも、お話を聞いていくにつれて、「志田焼」をこれからも守っていかなければと強く思いました。私が一番印象に残った話は、志田焼に描いてある模様は、職人たちが、自由に自分が思った通りに描くことで、見る人の興味を引き付け、想像させる工夫をしていたことです。このように私みたいに、まだ志田焼の魅力に気付いていない人がいると思うので、どんどん私たちが志田焼を発信して、志田焼が塩田のシンボルとして輝いてほしいです。そして改めて志田焼は私たちの誇りだなと思いました。